2007年度大会記録

2007年度は第9回大会を麗澤大学にて2日間にわたり開催しました。今回は、時間枠にゆとりがあり、さまざまなテーマに関する研究発表、パネル発表を行っていただきました。また、講演・シンポジウムには一般の方々の参加も多く見られました。当日は同一校舎で日本言語学会も同時に開催され、多くの言語研究者が一堂に会し、本学会の存在をアピールできたのではないかと思います。なお、会場運営においては、日本言語学会スタッフの支援を多分に受けました。末筆ながら書面にて御礼申し上げます。

(山川和彦)

第9回大会

大会テーマ：21世紀の新たな言語政策—多様化する言語問題にどう向き合うか

日時：2007年6月16日（土）13：00 - 17：30

6月17日（日）10：00 - 17：30

会場：麗澤大学（千葉県柏市）

6月16日（土）

総合司会 山川和彦（麗澤大学）

13：00 - 13：10 開会の辞 日本言語政策学会会長 田中慎也
開催校挨拶 麗澤大学学長 中山 理

13：10 - 15：00 麗澤大学現代GP共催シンポジウム「国際共通語としての英語教育と第二外国語」
パネリスト

現代GP「国際共通語としての英語教育」と多言語多文化総合プログラム
櫻井良樹（麗澤大学）

麗澤大学の留学政策とクロス留学の具体的成果

奥野保明（麗澤大学）

EUにおける複言語教育政策—ドイツの『外国語カリキュラム』改訂を中心に
杉谷真佐子（関西大学）

ディスカッサント

International Degree Courses in Germany.

アンネ・ゲラート (ドイツ学術交流会)

(通訳: 儀達夫 麗澤大学)

15:30 - 17:30

【1601 教室】 研究発表

司会 三好重仁 (東京電機大学)

(1) 研究発表 日本における「World Englishes 論」の展開と限界

—英語のなかの「多様性」と言語的多様性—

城座沙蘭 (東京大学大学院生)

(2) 研究発表 小学校英語教育導入議論の言説分析—1990年代から現在まで

寺沢拓敬 (東京大学大学院生)

司会 原 隆幸 (明海大学非常勤)

(3) 研究発表 アイデンティティ教育としての英語教育

中村義実 (敬和学園大学)

(4) 事例研究 言語教育政策と教育現場—中国の外国語教育を例として—

岩田敏和 (青年海外協力協会)

【1602 教室】 パネル発表

外国人住民への言語サービスについて考える—地域社会・自治体は多言語社会をどう迎えるか—

河原俊昭 (京都光華女子大学)、熊谷 晃 (長野県庁)

仙田武司 (しまね国際センター)、野山 広 (国立国語研究所)

藤田美佳 (神奈川大学)

18:00 - 19:30 懇親会 れいたくキャンパスプラザ

6月17日(日)

10:00 - 12:00

【1405 教室】研究発表

司会 西山教行(京都大学)

(1) 事例研究 オーストリアのブルゲンラント州におけるハンガリー語話者の現状と展望

大島 一(桜美林大学非常勤)

(2) 事例研究 移民の社会統合と人材育成—ドイツの事例研究—

松岡洋子(岩手大学) 足立祐子(新潟大学)

司会 宮崎里司(早稲田大学)

(3) 事例研究 なぜ少数先住民族への二言語教育は廃止されたのか

—豪州ノーザンテリトリーの事例から—

拝田 清(桜美林大学大学院生)

(4) 研究発表 戦後日本における識字運動の構造

かどや・ひでのり(津山工業高等専門学校)

【1408 教室】研究発表

司会 高民定(千葉大学)

(1) 事例研究 韓国の外国語教育政策を考える—「雁パパ」の意識を通して—

李炫姫(桜美林大学非常勤)

(2) 事例研究 言語政策と個人言語管理—マレーシアの事例から—

石田由美子(桜美林大学言語教育研究所)

(3) 研究発表 中国朝鮮族における言語規範—綴字法を中心に—

李守(昭和女子大学)

【1601 教室】パネル発表(手話通訳つき)

混乱・模索するろう教育の現場—教育政策・言語政策のはざままで—

佐々木倫子(桜美林大学)、高浜良友(ろう児保護者)、
新井孝昭(筑波技術大学)、木村晴美(NHK手話ニュースキャスター/
国立身体障害者リハビリテーションセンター学院・手話通訳学科)

13:00 - 13:30 総会

13:30 - 17:15

講演とシンポジウム「日本社会と言語的マイノリティ」

司会 松原好次（電気通信大学）

講演（13:30～14:30）

姜尚中（東京大学）「日本語の母胎と異胎」

シンポジウム（14:45～17:15）

パネリスト

スチュアート ヘンリ（放送大学）「マイノリティ言語：内外の比較」

二宮正人（サンパウロ大学）「ブラジル日系社会における言語継承」

村崎恭子（アイヌ語研究家・元横浜国立大学）「樺太アイヌ語の終焉と再生

—言語採集者からの報告」

17:15 - 17:30 閉会の辞

橘 好碩（日本言語政策学会副会長）

なお、所属はすべて大会開催当時のものです。